

史跡古津八幡山遺跡保存活用計画推進委員会(第4回)・
古津八幡山遺跡確認調査指導部会(第6回)
議事内容要点

日 時 令和元年9月30日(月)
午後1時30分～

会 場 新潟県埋蔵文化財センター研修室

出席委員

小林達雄委員・石川日出志委員・川上真紀子委員・齋藤純子委員・朱雁委員・
中山利之委員・橋本博文委員・石黒立人委員

欠席委員

内山英紀委員・菊地芳朗委員・高橋郁子委員

指導・オブザーバー

新潟県教育庁文化行政課 滝沢規朗氏
新潟県埋蔵文化センター課長 沢田敦氏

当日次第

1 開会

2 挨拶

3 報告・議題

(1) 保存・管理関係

a. 2019年度古津八幡山遺跡確認調査の報告

- 委員意見：堅穴住居 SI1について、平面形状は隅丸方形と表現されているが、楕円形の方がいいのではないか。直線的なラインが非常に乏しいうえ、建て替え前の壁溝の平面形状は楕円状と表現されている。
- ◆事務局：現状では、事務局としてどちらの表現がより適切かは断言できない。現地を見ていただき、ご意見をいただきたい。

(2) 整備関係

a. 堅穴住居の修繕状況について

②修繕状況

- 委員意見：2号棟の修繕はしないというのはどういう理由か。
- ◆事務局：一昨年の大雪などで、柱を含めて腐り、傾いてきているため大々的な修繕になるということで今回は外した。また、今後も堅穴住居の自然に腐っていく状況を観察していくため取り壊さない予定。
- 委員意見：逆葺きから本葺きへと変更するということだが、見た目は変わるのか。
- ◆事務局：今は見た目が、悪く言えば雑に見え、よく言えば自然に見える。本葺きになると奇麗にきちんとして見える。昔はそのような葺き方はしていなかったと思うが、本葺きの方が屋根の持ちが良いので、そうせざるを得ない。すでに6・7号棟については、本葺きに変えてある。

b. その他

○ベンチについて

- ◆事務局：古墳の墳頂ではベンチの修繕と確認調査の際に切った杉などを使い、木製椅子を新たに設置した。
- 委員意見：前に文化庁の調査官が来た時に、杉の木がゴロンとしてあったのを気に入っていたが、もうやめたのか。
- ◆事務局：残っているが、だいぶ腐っている。
- 委員意見：新たに追加するか。
- ◆事務局：追加することは可能だが、まだしていない。
- 委員意見：あまり評価していないということか。
- ◆事務局：良いと思っている。史跡公園というものは人の動きがあまり感じられないが、このようなことをすることで、少しでも人の動きというものが感じられるので、是非、これを続けたいと思っている。
- 委員意見：ゴロンと転がせておくというのは、私も迎合して発言したことは覚えている。一本とは言わず、複数本転がしていただけると良い。
- ◆事務局：切るときもチェーンソーではなくて石斧で伐採した。
- 委員意見：是非、続けていただければ、面白いと思う。

(3) 活用関係

a. 2018年度の活用関係の報告

○小・中学校の活動・利用について

- 委員意見：市内にはたくさん小中学校があると思うが、活動した・利用した学校は、どのような活動をしたのか。例えば、遠足のような形なのか、それとも歴史的な勉強をしたのか。
- ◆事務局：活動内容ですが、大半が小学校6年生の課外授業や総合学習である。学校ごとに時間配分等は異なるが、基本的には展示を見たあと火起こしなどの体験を行い、時間がある場合はガイドダンス職員と広場の方を回って、遺跡の説明を行うという内容である。また、学校によっては石油の世界館に行き、地層の見学をする。
- 委員意見：文化財センターとして、小学校の活動・利用内容をどのような形で各小学校に報告しているのか。例えば、先生方が社会科等で、ここの施設でこのような活動をしたと発表する場があると思う。そうすればもっとたくさんの学校に広まると思う。これらの体験等があまりにも市内の小学校・中学校に広まっていないように見受けられる。口コミでもいいが、形としてこれらを知らせる手出では実施しているのか。
- ◆事務局：小中学校に対する周知の面では、こちらの方に不十分などところがある。確かに小学校の中には「こういうことができるのがわからなかった」という意見もアンケートにあるため、周知の方法については、もっと検討して積極的にやっていく必要がある。
- 委員意見：この配布資料を作られた意味の話があったので、なおさらその辺をたくさん小学校、中学校の子供たちに広めていったら良いのではないかと。
- 委員意見：小学生・中学生が来る時は、どうやって来ているか。
- ◆事務局：大型バスが多い。
- 委員意見：そのバスはどうやって手配しているか。
- ◆事務局：どういう形かはわからないが、学校で手配をしてくれている。
- 委員意見：学校なら一人や二人ではなく大勢で来ると思うから、学校側からすると、生徒をどうやって連れていくかという、その手段を考えるのが結構大変である。どこか良いモデルケースがあり、そういうことも含めて周知していくことができれば、学校も利用しやすくなるのではないかと。

弥生の丘展示館としては積極的にそういう手立てをしているわけではないのか。

◆事務局：特にしていない。

●委員意見：その辺りを研究してみて、こういう手はどうかというのがあれば、大いに周知して、利用に役立ててもらえば良いと思う。

b. 2019年度の活用関係について

②小・中学校向け配布資料

●委員意見：中学生向けなのか小学生向けなのかはっきりした方が良いと思う。小学校6年生が一番来る。だったら小学校6年生にわかるように作れば、中学生にもわかると思うので、小学校6年生向けとした方が良いのではないかと。そうすると、まだ難しい言葉があるということと、もう少し内容を精査した方が良いと思う。

例えば弥生時代のところに、「農耕が青森まで広がった」と出ているが、これは専門家にとっては非常に魅力的な話だが、小学校6年生にそれを言って、何がわかってもらいたいのか今一つ見えてこない。「青銅器」と言われて、青銅でできた道具と言っても、「何、青銅って」とそこで止まることになってしまうので、こういう一つ一つの言葉をどこまで使い切るかは小学校の教科書を見ながら、小学校で理解できる言葉のレベルにした方が良いと思う。

それから、小学校ではまだ考古学にあたるものは教えていないと思う。全く出てこないに近いと思うので、私たちの方からすべて発信するくらいのつもりで、資料を提供しないとだめだと思う。そこはかなり精査した良いものを作って、この弥生の丘展示館の魅力というものがわかるようにしていったほうが良いのではないかと。

例えば、「竪穴住居で暮らしていました」とあるが、竪穴住居と突然言われても全く分からないので、逆にこの竪穴住居の絵を大きくして、「このような住居で暮らしていました」という風にすればわかりやすい。もっと絵を使って、絵の方を大きくして、字の方を限定する、という風にした方が良いのではないかと。

これだと教科書のようなので、子供たちはあまり読みたくないかもしれない。もう少し子供たちの目の中に飛び込んでくるようなイラストとか、そういうものを使った方が楽しく勉強できるのではないかと。せっかく野外に来て、元気いっぱいの子供たちに、学校内とは違う学び方をしてもらおうという点では、そういうパンフレットが良いのではないかと。

◆事務局：パンフレットだが、前年度も絵を大きくしたほうが良いという話があって、できるだけ大きくするよう心掛けた。しかし、文字と絵のバランスをみると、今の状態はバランスが取れていて、もし絵を大きくすることに重点を置くのであれば、レイアウトから考え直した方が良いのかもしれない。

●委員意見：これはとても大事な話である。小学校6年生にターゲットをしばるとなると、教科書の何ページかを抜き出したみたいな感じのものでは特別に新しいものに出会うという感激は与えないかもしれない。

そういった意味での一つの解決の仕方としては、右ページにずっと写真が並んでいるが、このあたりも同じサイズではなくて、「これは」というものを大きくして、そうではないものは小さくても良い。そしたらもっと図や写真が入るかもしれない。

レイアウト全体も仕上がりの効果に関係してくるので、これで良しとせず前進を図っていただければありがたい。

それから、小学校6年生だからといってこの活字のサイズは大きすぎる。小学生だってこれより小さい字をたくさん読んでいる。もっと小さくても良いと思う。一つの文章のなかであれもこれもと説明するのは難しくなるので、大人の本にはよくあるように「※注」を付けてはどうか。竪穴住居とはこういうものだとか、青銅器はこういうものだということを本文の中で説明するのは大変なので、それを欄外や

「※注」などで説明する。あの手この手を使って、変化を持たせた方が子供はわくわくする。こういうもの自体を用意するという考え方は、非常に重要なことだと評価される。

- 委員意見：遺物の図で7ページの須恵器の集合写真は良いと思う。それ以外の1ページの旧石器、2ページの縄文土器、5ページの北陸と東北の特徴を併せ持つ地元の土器とあるが、こんなにたくさん使わなくても良いのではないか。旧石器は2～3点で、縄文土器も大きくてもっと分かり易い代表的なものを載せれば良いと思うし、弥生土器に関しては、北陸系の土器と東北系の土器と折衷した八幡山式土器の三つを並べておけば十分かなと思う。

5 現地見学・指導（復元竪穴住居の修繕・発掘調査現場）

○現地視察後の意見

- ◆事務局：SI1と重複する大型の竪穴住居 SI465 との前後関係だが、切り合い関係などからSI465の方が新しいということで承諾を得た。

今後の計画を含めて、大型の竪穴住居の西側半分を掘ったわけだが、柱の配置や炉の位置がまだ確定できないということで、十字の(土層観察用)ベルトを残して東側についても調査を行い、柱の配置などを明らかにした方が良いという意見をいただいた。また、東側の調査区についても、もう少し伸ばして確認した方が良いという意見をいただいた。

今後、大型竪穴住居 SI1の柱の配置や炉の有無について、今回の意見や指導を踏まえた上で調査を進めていきたいと考えている。

今年どこまでできるかというのは予算の関係もあるが、来年の補足調査も含めて大型竪穴住居や重複する竪穴住居 SI465 の柱などの構造について、極力ベルト以外には掘るような形で明らかにしたいと考えている。

来年度の主たる目的として、尾根の北側の範囲確認というものがあるが、それと並行するような形ではっきりさせたいと考えている。

- 委員意見：今回調査している北東の低いところ、ここにあのような遺構群が見事な状態で出てきているのは、意外な感じもした。

この遺跡の存続時期のなかでは最終段階のものが殆どなわけだが、古い段階のものが混じっているのも、もしかすると比較的早い段階からここに建物が建てられた可能性が残されていると思う。この集落の中心部がある丘陵の高いところだけではなく、北東側の低いところに建物があるとすると、古墳の真北、北西側にもゆるい比較的平らな面が伸びている地区があるため、この地区はそうした遺構群がないのかということが気になる。可能性があるということを念頭において、将来何らかの形でこの地区も調査をするということを選択肢の中に入れておいてもらいたい。

- 委員意見：昨年、大きい掘立柱建物が見つかったことについては、報道公開もして、現地説明会の機会も用意してもらったと思う。今回の竪穴住居についても、報道等に公開して、現地も公開してほしい。追加指定を目指しているところなので、広く情報の発信をしてほしいと思う。

- ◆事務局：来週のまいぶん祭りで公開はするが、今年は報道公開というのは考えていない。昨年と同じ場所ではあるが、掘ったらすぐ受ける印象が大きいので、今後は報道公開をするべきだと改めて認識した。

- ◆事務局：土器のなかに、古そうな時期のものがあつた。今までの調査でも方形周溝墓構築以前にできた外環濠Cから北陸の編年という猫橋式の新しい段階だと考えている土器もでてくる。石川県の田嶋さんもよしとしているので、それくらいの時期に少なくともこの遺跡で環濠が掘られているということになる。同じ時期なのか、それより更に古い時期なのかかわからないけれども、その時期に遺跡の中心部分も機能してい

たということを申し添えておく。

- 委員意見：追加指定を考えるということであれば、今年は大変だと思うが、来年度以降は中核になっているこのSI1の調査を文化庁に現地を見ていただき、それで指導をいただいて不足のない調査をやってほしいと思う。

6 閉会